

スリー・リングズ

◇住民◇企業◇行政と共に、全員が参加して
横浜のコミュニティ活動を推進

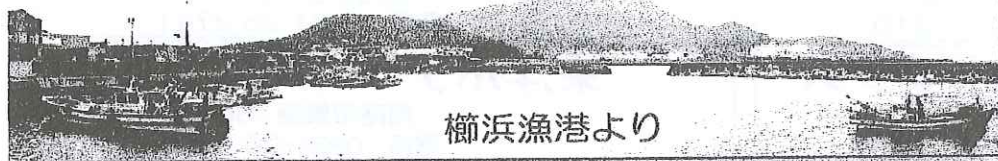
10月号 地域の話・利・輪

太華山

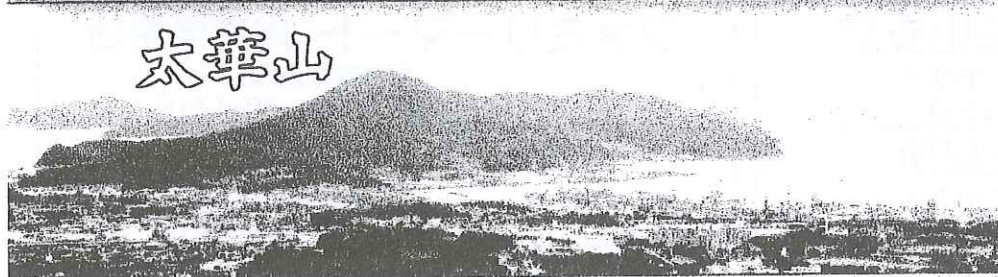


太華山 (たいかざん) 横浜小学校 校歌

一、太華の山は 青くして
鼓海の波は おだやかに
自然の恵み ゆたかなる
我らの郷土 横浜



横浜漁港より



太華山

横浜小学校の校歌に歌われ
風光明媚な横浜の
シンボルである太華山
『太華山に雲がかかると雨が降る』
等と言われ、我々、日々の生活に
慣れ親しんでいるこの山の名前が
いつ頃どのような由来で、誰が
『太華山』と名付けたのか
横浜郷土史会の方々に、調べて
頂きました。

一、太華山の名は いつ頃ついたか

江戸時代後半と考えられる。
江戸期に入り、幕藩体制を
支える精神的なよりどころ
として、儒学がもてはやされる
ようになり、江戸後期には、
ここ防長(山口県)においても
これらの学問が奨励され、徳山
藩七代藩主毛利就剛(なりよし)は、
藩校 鳴鳳館を創設し、隠居後の
寛政十二年(一八〇〇年)に
「大島不動尊」を建立している。
従って、この頃は、まだ「大島」と
呼ばれていたと思われる。
その後、文政三年(一八二〇年)
鳴鳳館四代教授に「本城太華」の
名があり、嘉永二年(一八四九年)
には、萩の 明倫館 館長に、
「山県太華」の名もある。
この時代には、漢学者により
中国の地名を付けることがはやり
このようなことから「大島」が
「太華」の山名になったのではない
かと思われる。

二、名前の由来

その「太華」の由来は、中国西安の
東部 陝西省せんせいしょうに、
『太華鎮』という町があり、
二、〇〇〇メートル級の山が連な
る景勝地がある。
その中に、太華山(たいほうさん)
と呼ばれている山があり、
定かではないが、漢学者は、この山
を参考に、太華山(たいかざん)と
したのである。

三、太華山の命名者は

山の名付け、変更に関する高札か
文書でも出てくれば、はっきりす
るだろうが、今のところ謎である。
いずれにしても、文政(一八二〇年頃)
から嘉永の(一八四九年頃)の時代に、
「大島」から「太華」に変わったと
考えられている。

現在は、山名の決定は、国土地理院
であろうが、太華山と名前を変え
るとき、当時の人たちは、どの様に
受け入れたのであろうか、
これも歴史のロマンと言えよう。

横浜郷土史会

太華の山は 青くして
我らの郷土 横浜を
今後も見守ってください。

参考文献
○太華山パンフレット
○昭和二年発行の「太華案内」
○その他「ふるさと横浜」等

横浜地区コミュニティ推進協議会からのお知らせ

11月6日(日)横浜地区ふれあい文化祭が、横浜公民館で開催されます。本年は、公民館駐車場も全面オープンとなり、バザーコーナーのスペースが広くとれ、ご来場の皆様にゆったりとした文化祭を楽しんでいただけるよう、スタッフ一同 準備を進めております。詳細は、11月号でご案内いたします。(横浜小学校のふれあい参観日は、10月22日に変更となっています)

【スリー・リングズ】へのご投稿をお待ちしています。

電話 0834-25-0555 Fax 0834-25-0551

お問合せ、横浜公民館内・横浜地区コミュニティ推進協議会執行部・庶務係

mailアドレス kushi-comm@m2.ccsnet.ne.jp